

平成27年度事業計画

平成26年度の日本経済は消費税上げにより実質国内総生産の成長率が2四半期連続マイナスになったものの、その後円安・株高、原油安により緩やかな回復基調に復している。一方、平成26年度の私立大学の定員割れ状況は前年度の40.3%から45.8%と5.5ポイント悪化するなど、私立大学を取り巻く経営環境は厳しさを増してきている。平成27年度の景気は、企業収益の拡大基調が継続する中で、雇用や家計所得の改善が好循環を促し、引続き総じて緩やかに回復していくと見込まれている。

平成24年度の入学者は東日本大震災の影響等もあり、大幅な定員割れが発生し、その後回復傾向にあるものの、定員割れが続いていること、平成27年度入試の志願者数、入学手続き状況も厳しさが継続していることから、今年度は引続き学生の安定的確保を最優先課題として全学をあげて取組んでいくこととする。昨年設置した「入試広報活動強化のためのプロジェクトチーム」で検討を進めてきたオープンキャンパスや高校訪問の充実、広報の拡充等の施策、「学部・学科の改組・再編のためのプロジェクトチーム」で検討を重ねてきた改組・再編案をできるだけ早く実現することにより、定員の未充足を解消できるよう努めていくこととする。一方で、単年度で定員を確保しても在籍者数が急回復するわけではなく、当面厳しい状況が続くことが見込まれる。したがって、教学面では多面性をもった学生を受け入れ、きめ細かな教育により学生の能力を高めていくとともに、キャリア教育と就職支援活動を更に強化することにより本学の魅力向上を図っていくこととする。また、「地方創生」がわが国の重要課題となっており、本学が培ってきた研究資源を活用するとともに、地域と連携し実施する地域振興、産業振興、人材育成等の実践的活動を支援する大学として、産学連携や地域社会との連携強化にも努めていくこととする。昨年4月に名称変更した「地域連携センター」は、「地域復興プロジェクト」「復興大学」「COC」事業(オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業)の推進を中心に引続き地域貢献、社会貢献に積極的な役割を果たしていくこととする。

高校においては、「仙台城南高等学校」が、特進科・探究科・科学技術科の3科からなる新しい高等学校として順調にスタートしたが、今年度はいよいよ完成年度を迎えることとなる。「大学と接続した新しい学びの創造」をスローガンに、東北工業大学が有している魅力や特色を再構築し、特色ある学校づくりを目指し、質の高い教育を提供していくこととする。今年度は「高大連携戦略検討のためのワーキンググループ」での検討を加速させ、仙台城南高校と東北工大の教職員のコミュニケーション強化、相互理解を図り、高大の協力体制を構築していくこととする。

財政面については、今年度は老朽化が進んでいる八木山キャンパス4号館の改修工事や情報システムの更改に伴う施設・設備支出が見込まれることから、引続き法人全体としては、入学者、在籍者の確保による学納金収入や補助金収入の増収を図っていくとともに、削減できる経費や無駄なコストの支出抑制に努め、単年度収支の改善を目指すこととする。教育研究の質向上と施設設備を整備するためには、確固とした財務基盤の構築が不可欠である。これまで運営健全化計画の推進により人件費・物件費の抑制に努めてきたが、今年度は更に平成26年度に策定した「教職員の適正人員」に基づき収容定員充足率に対応した適正な人員配置を推進することとする。

今年度は学校法人東北工業大学第2次5カ年計画の2年目となるが、組織横断的なメンバーで構成された5つのプロジェクトチーム等での活動を継続するとともに、計画に掲げた最重点施策を工程表に従って責任部署が中心となり、着実に実行していくこととする。第2次5カ年計画に掲げたビジョン「東北地方における私学として最も魅力のある文理融合型の工科系大学」(大学)、「特色ある教育を推進し宮城県随一の私立高校を確立する」(高校)の実現に邁進していくこととする。

I 事業計画の内容

1. 大学部門

(1)教育研究の充実

- ア. 新カリキュラムの構築
- イ. 入学前・リメディアル教育の強化
- ウ. 共通教育センターの見直し
- エ. プロジェクト・研究活動および大学COC事業の推進
- オ. 研究評価体制の確立及び研究環境の整備

(2)入学者確保のための施策

(3)就職支援のための施策

(4)国際交流

(5)地域連携センターの機能拡充

(6)情報システムの更改

(7)一番町ロビーの検証と活用

2. 高校部門

(1)仙台城南高校完成年度

- ア. 教育内容と学科の特色
- イ. 継続的な広報戦略の展開
- ウ. 入試制度の検証と改善

(2)教育内容の整備・充実

- ア. 教員の資質と授業力向上
- イ. 生徒の学力向上と進路実績向上
- ウ. 機能性の高い校内組織の構築
- エ. 部活動、生徒会活動の活性化
- オ. 中途退学者の抑制

(3)教育環境の整備・充実

- ア. ICT教育の環境整備
- イ. 学科ごとの教室と職員室の配置
- ウ. 科学技術科の設備整備

(4)東北工業大学への進学者確保

(5)学校評価・地域連携・貢献への取り組み

(6)地下鉄東西線の活用

3. 共通部門

(1)収入の確保

(2)支出の抑制

ア. 物件費の抑制

イ. 人件費の抑制

(3)施設・設備の改修

(4)八木山キャンパス整備基本計画の策定

(5)奨学金制度の拡充

(6)事務組織の見直し